

3 2017年度海外学会等への派遣者を募集します

国際交流委員会委員長 根岸淳二郎

2017年度の海外学会等への派遣者を募集します。以下の募集要領をご覧ください。昨年度募集要項から、「選考基準」等に一部追加変更があります。また、「派遣を推奨する国際学会およびシンポジウム」の事例紹介を見直しています。

本制度を活用した研究者や技術者から有意義な経験や体験が報告されていますので、ぜひご応募を検討ください。

2017年度海外学会等への派遣者の募集

国際交流委員会

応用生態工学会国際交流委員会（委員長：根岸淳二郎）では、2017年度の海外学会等への派遣者1名を募集します。募集要領の概略は以下のとおりです。詳細は、学会ホームページをご確認のうえ、事務局まで申し込みください。

海外学会等への派遣者募集要領

1. 目的

自然環境と開発の問題については、我が国だけに限らず多くの国々で関心が持たれ、様々な研究と実践的な試みが行われてきている。応用生態工学を発展させるためには、こうした海外での活動に積極的に係わり参加することによって、情報を得ながら、人的交流を図ることが求められている。

応用生態工学会では、ここに会員から希望者を募り、「派遣研究員」を審査選考して、当該年度に海外で開催される応用生態工学に関連する学会・シンポジウム・国際会議等に派遣し、その内容を応用生態工学会会員に報告するものである。

2. 選考

1) 資格

- ① 応用生態工学会の正・学生会員であること（募集開始時点で会員でなくても、会員となることを条件として応募可能とする）
- ② 学生あるいは35歳未満の研究者・技術者

2) 派遣研究員の選考

- ① 学会としての総助成額を20万円とし、原則1名、場合によっては2名を選考する。
- ② 選考にあたっては国際交流委員会において書類審査を行い、候補者を選定した上で国際交流委員会にて決定し、幹事会および理事会に選考の経緯および結果を報告する。

3) 選考基準

- ① 派遣対象となる会議のテーマと本人のバックグラウンド（研究・調査経験）の整合性

- ② 派遣対象となる会議で何を学ぼうとしているのか、その焦点を明確に述べているか否か
- ③ 国際会議に出席して内容を把握できる能力
- ④ 応用生態工学への関心の度合い
- ⑤ 応用生態工学会での活動・参加状況・受賞歴
- ⑥ 派遣に関連する研究業績や業務実績

4) 派遣後の要件・手続き等

- ① 派遣研究員は、海外渡航の成果を指定の様式を用いて報告するものとする（報告内容は本学会のニュースレターおよび会誌“応用生態工学”に掲載します。なお、会誌“応用生態工学”では、「トピックス」に掲載します。).
- ② 派遣終了後は、助成額の使途（使用費目と金額）について、決算報告するものとする。渡航先によっては、助成額の総額を上回る金額を使用した場合も考えられるが、その場合は、それらも含めて決算報告を行う。使用金額が助成額の上限を超えなかった場合には、余剰金を応用生態工学会に返金するものとする。
- ③ 何らかの理由により海外渡航と学会参加を中止する事態が生じた場合には、すみやかに応用生態工学会事務局にその理由などを報告するものとする。
- ④ 派遣研究員は、関連した研究や技術開発について、会誌“応用生態工学”もしくは英文誌“Landscape and Ecological Engineering”に論文を投稿することが推奨される。

3. 申請書

派遣希望者は、会員番号、氏名、所属、連絡先（住所・TEL・FAX・E-mail）、年齢、性別、専門分野、希望派遣学会等（開催会議等の名称、主催者名、開催月日、開催国・地名、会議等の目的・内容、現地見学会の有無と内容、参加申し込み期限、参加費、研究発表を行うか否か（その形式）、案内パンフ等がありましたらそのコピーをお送りください）、および派遣希望理由（上記の「3」選考基準」の各項目）を、A4計3枚以内（書式自由）にまとめ、郵送・FAX・E-mail 等にて学会事務局に申し込みください。

なお、4月以降に所属が変わる場合は、4月以降の連絡先も付記してください。

4. 申込期間

2017年2月20日（月）～3月31日（金）事務局必着

5. 派遣決定時期

2017年4月下旬までに決定

6. 派遣を推奨する国際学会およびシンポジウム

- Annual Meeting of Society for Freshwater Science (SFS) <http://sfsannualmeeting.org/>
- HydroEco 2017
<http://www.birmingham.ac.uk/generic/hydroeco2017/index.aspx>
- IUFRO 8.01.02 Landscape Ecology Conference 2017

<http://iufrole2017.eli-web.com/>

- 7th World Conference on Ecological Restoration <http://ser2017.org/index.php>

その他、以下の国際学会が主催する国際会議

- American Geophysical Union (AGU) <http://sites.agu.org/>
- American Society of Limnology and Oceanography <http://aslo.org/index.php>
- European Geosciences Union (EGU) <http://www.egu.eu/>
- International Society for Ecological Modelling (ISEM)
<http://www.isemna.org/>
- International Society for River Science (ISRS) <http://www.riversociety.org/>
- International Water Association (IWA)
<http://www.iwa-network.org/>

なお、上記以外の国際学会やシンポジウムでも応募できます。

4 行事開催報告

4.1 応用生態工学会広島・土木学会水工学委員会環境水理部会ジョイントシンポジウム 開催報告 ～ダム貯水池の水環境に関する現状と将来～

応用生態工学会広島 山原康嗣 (中電技術コンサルタント株式会社)

1. 開催趣旨

中国地方をはじめとして、多くのダム貯水池では、依然として富栄養化、貧酸素化、着色等、様々な水環境に関する課題を抱えており、今後、官・学・民が一体となったダム湖の水環境の改善に向けた取り組みが不可欠となっています。

これらの課題は、応用生態工学分野と水工学環境水理分野において共通的な要素が多く、本シンポジウムにおいては、官・民の立場から実務上の水環境問題についての講演、大学の研究者からは、最新のダム湖等閉鎖性水域の解析モデルの紹介やそれを用いたダム湖の水質管理に関する講演をいただきました。

また、5人の方の講演を踏まえて、ダム貯水池の水環境問題に対する現象解明や解析技術を含む予測・評価技術、対策手法等の課題や今後の展開、展望について、広島大学 山本民次先生のコーディネートのもと、講演者とシンポジウム参加者を含めた総合討議を行いました。

